

労働省編一般職業適性検査^(*)を使った キャリアガイダンス

元 大阪府 職業カウンセリングセンター 技師^(**) 山本千晶

事例1 転職を考えるAさん

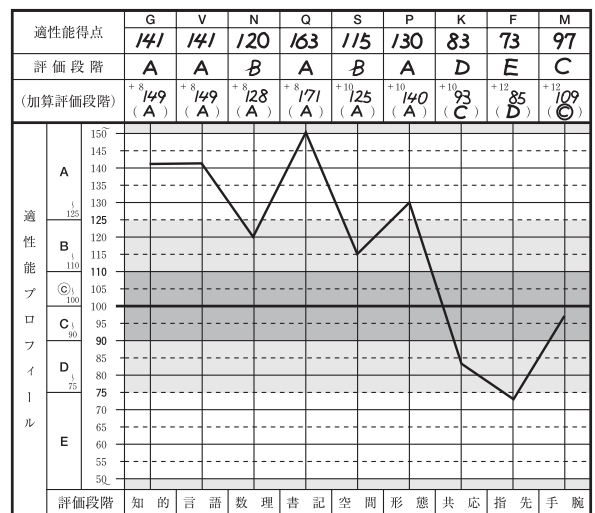
外国語学部卒のAさん（二十歳代女性）は、得意な語学を活かすために、あるメーカーの貿易事務職に就き、貿易関係の文書の翻訳などの仕事を意欲的にやっています。

その後、貿易業務が減少したため、営業事務のアシスタントも兼ねることになりました。しかし、営業事務の仕事を感じることは、彼女にとって予想以上に難しく感じられ、語学を活かせる仕事への転職を考えていました。

彼女は、学生時代はずっと優等生であり、大変な努力家ですが、いつも自分のことを要領が悪いと感じ、自分に自信がもてなかつたと語っています。

彼女の労働省編一般職業適性検査（GATB）の結果は、適性能力の得点にかなりのばらつきがありました。言語能力（V）は、二つの下位検査とも、ほとんど誤答がなく、翻訳等の文書を扱う言語処理能力の高さがうかがえました。

一方で、書記的知覚（Q）は、かなりの高得点ですが、内容を見ると、後半になって誤答が急になつていました。回答数が少ないのではないかと気になり、後半は焦つたとのことでした。



Aさんの職業適性検査（GATB）プロフィール

考えられました。彼女もGATBのプロフィールや性格検査の結果を知ること、具体的に自分の特徴が捉えられ、納得していました。

さて、転職についてですが、職種としては、やはり貿易事務のような語学力と定型的事務処理能力を活かせるものや、翻訳等を選ぶのが適当と考えられます。しかし、転職活動を始める前に、現在の営業事務の仕事をもう一度客観的に見直し、苦手意識を克服することが大切ではないかというところもアドバイスしました。

さらに、運動共応（K）や指先を使う細かい作業が苦手なため、事務的な仕事では、業務内容は十分に把握できなくても、実務的な細かいところでの手際の悪さや些細なミスが、前面に出てしまつて予想されました。

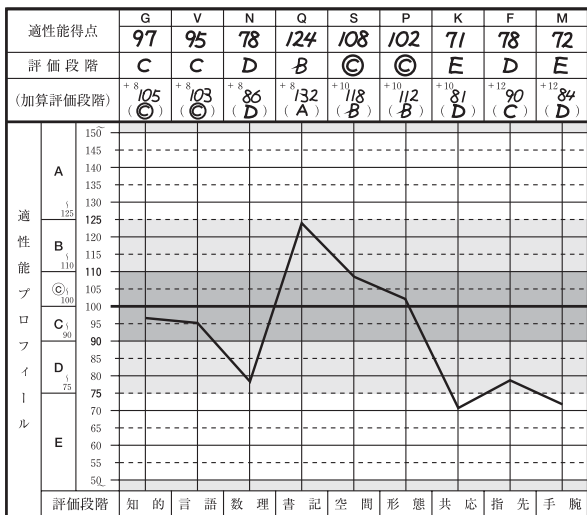
性格検査からは、彼女のものの感じ方の特徴として、周囲からの期待や評価に気を使いすぎてストレスがたまり、自分自身を冷静にみつめることが難しいということが浮かび上がりました。

現在の仕事に対して不向きと感じるのは、能力的なことが主な原因というよりも、性格特徴や語学力を活かせないという不満によるところが大きいと

事例2 仕事が長続きしないBさん

商業高校を卒業して、銀行に就職したBさん（二十歳代女性）は、人よりも仕事が遅いため、だんだんと消極的になり、人間関係もつらくなつて約1年で退職し、その後は短期のアルバイトをしながら、求職活動をしていま

*1 現在の名称は「厚生労働省編一般職業適性検査」。
*2 現在、臨床心理士。



Bさんの職業適性検査 (GATB) プロフィール

要するようなじつくりとした取り組みが必要なことは、やや苦手という特徴がうかがわれました。彼女は、経験を活かせるほうがよいと思い、これまで事務職を選んできたこのことです。しかし、事務職は本人の職業興味や能力とはあまり一致していなかったようで、仕事への意欲が続かず、何となく辞めるといふ形で行動特徴のマイナスの面が出ていたと考えら

れることなどを、検査の結果を見ながら話し合いました。数的処理能力は自分でも苦手なほうだと自覚していたとのことでした。商業高校から銀行勤務へという、順調にも見える職業選択ですが、本人の能力適性や職業興味からは、やはらずれた展開であったようです。その後も一般事務や経理補助で採用されては、何となくすぐ辞めるといふことを繰り返してきたのです。これからは、家事代行業のような仕事に就いてみたいと漠然と考えていたということでした。この仕事は、GATBの結果に出ているように、彼女にとってやや苦手な指先や手腕の器用さを主に使う仕事となります。そこで、本人の希望を尊重しつつ、作業実務や対人業務のように職業興味の高い仕事で、かつ得意な書記的知覚を使う事務的処理がプラスされた仕事にも目を向けてみてはどうかとアドバイスしました。彼女も検品やルート配送、クーリーニングの取り次ぎ業務に興味を示していました。

相談終了後10日程で、彼女は就職を決めました。化粧品の検品やピッキング及び梱包等の発送作業の仕事をしているとのことでした。就職して既に2カ月が過ぎていますが、今までのように何となく辞めたくなくなるといふ気持ちになつておらず、自分の職業選択に初めてはつきりした指針がもてたことで、これまでとは違う方向へ進めたといふのが彼女の発見でした。

相談を振り返って

今回取り上げた二人はともに、就労意欲をもちながらも、気を入れて取り組める仕事にうまく出会えなかった人たちです。それぞれにやりたい仕事のイメージはあるのですが、すんなりとそれを選ぶ自信がもてないこともあって、相談に來ました。そして、今抱えている問題を考えていくためには、適性を含めた自分の個性をもう一度じっくり見直すことが必要になってくるということが、相談の中ではつきりとしてきました。

このような場合には、GATBをはじめとする各種の適性検査を活用すると、検査の結果がプロフィール等の視覚的な形で出てくるので、本人には、説明を聞きながら自分の適性や個性について、納得のいく形で見直していくことが容易になります。彼女たちも、それぞれの個性を肯定的に見直すことで自信を取り戻し、次に進む方向を自分から決めて、元気に仕事に取り組んでいます。

※個人が特定されない範囲で事例を一部変更しています。